

【※募集終了（令和4年10月）】

【札幌校】

ダイバーシティの実現に向けた 「だれでもトイレ」整備事業

（総事業費：1,500万円）

寄附目標額：225万円

※ご支援頂いた寄附金は、「事業計画」に基づく事業など、キャンパス、附属学校園の「修学環境等を整備する事業」の実施に活用します。



事業代表者
札幌校キャンパス長
田口 哲

事業計画に関するお問い合わせ

国立大学法人北海道教育大学札幌校
総務企画部札幌校室札幌校グループ
<https://www.hokkyodai.ac.jp/sap/>
〒002-8502 札幌市北区あいの里5条3丁目

電話:011-778-0304
FAX:011-778-8822
E-mail : s-sap@j.hokkyodai.ac.jp



全ての人々に平等な空間を

※画像はイメージであり、実際の整備計画とは異なります。

皆様の【共感】が、
キャンパスを再生します。

キャンパスの再生と創造への「共感」。

【札幌校】ダイバーシティの実現に向けた「だれでもトイレ」整備事業

寄附目標額：225万円

区別のない空間づくりから心のバリアフリーを啓発し、ダイバーシティの実現へ

経年により老朽化した男女トイレを、誰もが不自由なく利用できる「だれでもトイレ」に再生することで、学生により良い修学環境を提供するほか、札幌校全体として多様性に対する意識を高め、利用する全ての人々が安心して過ごせる優しいキャンパスを創造します。【ダイバーシティ】多様性。性別や国籍、宗教等外見的にも内面的にも幅広く異なったものがもが存在すること。【心のバリアフリー】様々な心身の特性や考えを持つすべての人々が、相互に理解を深めようとコミュニケーションをとり支え合うこと。



札幌校福利棟（昭和61年築）
鉄骨造2階建 延べ床面積1,434㎡

売店や食堂、談話室等があり、
学生の憩いの場となっている建物です。



教員養成を主たるミッションとする札幌校では、ダイバーシティに配慮したキャンパスの実現を目指し、キャンパス内のバリアフリー化を進めてきました。福利厚生棟にある既存の老朽化したトイレを「だれでもトイレ」として再生することを通して、私たち一人一人が多様性に対する意識を高めるとともに、すべての人が安心して過ごせるキャンパスの実現を目指しています。そのような環境で育った学生が、すべての子どもたちを思いやることができる教員になるよう、人材養成していきます。（札幌校キャンパス長 田口 哲）

バリアフリー法前の古い基準に沿って建てられた札幌校は、様々な設備改修により快適な空間へ変わりつつあります。ですが、多目的トイレは未だにA・B研究棟と講義棟に1箇所ずつしかなく、とても不便を感じます。札幌校のユニバーサルデザイン化のさらなる発展に向け、多機能レストルームが設置されることを願います。（特別支援教育専攻3年 山本 真由佳）



札幌校では約1,000人の様々な学生が学んでいますが、多くのトイレが男女別となりジェンダーレストイレは講義棟の1階にしかありません。休み時には利用が重なることも多く、諦めて授業に向かうこともあります。授業の合間にも気軽に使えるジェンダーレストイレが新たに設置されることを願っています。（SOGIサークルフラット 一同）

事業費	建築工事（間仕切り解体・新設、内装仕上げ）	650万円
	電気設備工事（照明・コンセント、配管配線工事）	270万円
	機械設備工事（衛生器具設置、配管工事）	580万円
	総事業費	1,500万円

予算	寄附金	225万円
	学内予算	1,275万円
	合計	1,500万円

現状、問題・課題点



経年による老朽化

設置から35年が経過したトイレは、設備が老朽化しているために不衛生になりやすい状況です。また、ダイバーシティに配慮したトイレはキャンパス全体でもごくわずかしかありません。このような状況は利用する学生や来学者へ直接的な悪影響を及ぼし、大学へのマイナスイメージを抱かせます。

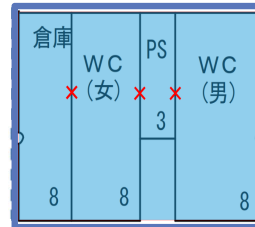


事業イメージ、事業による成果



区別をなくし誰もが利用できる空間に

近年、これまで以上に障害のある方や性の多様性への配慮について意識が高まっています。老朽化した既存の男女トイレの区別をなくし、スペース・配置・設備等、利用者の特性に配慮した「だれでもトイレ」に転換することで、多様性に配慮した優しいキャンパスを創造します。



既存間仕切りの撤去、空間の再構築

【状況等】

寄附の目標額を達成しました。

本事業に、たくさんのご関心と応援をお寄せいただきありがとうございます。公募から短い期間でありましたが、当初の目標額を達成することができましたことを、心よりお礼申し上げます。目標額達成に伴い、学生の期待に一刻も早く応えるべく改修整備工事へ向けて進めてまいります。工事が完了の際は、改めて皆様にご報告申し上げます。

令和4年10月20日
札幌校キャンパス長 田口 哲

キャンパスの再生と創造への「共感」。

既存トイレの老朽化

・経年による設備の老朽化は、学生や来学者の使用に支障をきたすばかりか、大学のイメージの低下に繋がる。



古くて汚い...
まだ和便器...

「使いづらい」が「使いたくない」に

狭い...
使いづらい...



最も利用される場所であるがゆえに、利用者に「整備の行き届いていない大学」というマイナスのイメージを抱かせてしまう。

トイレのあり方の見直し、空間の再構築

大学利用者の多様性に配慮したトイレ整備

- ・外部障害、内部障害のある方、乳幼児を連れた方への配慮
- ・SOGI（「性的指向 (Sexual Orientation) 」と「性自認 (Gender Identity) 」）の多様性への配慮

オストメイト対応トイレ

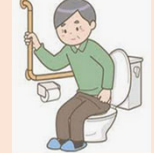


※ストーマ（人工肛門・人口膀胱）等の内部障害の方が楽な姿勢で使用でき、装具の洗浄が可能に

**だれが使う場合でも
嫌な思いをしないトイレ**



手すり、手洗い場



フィッシングボード



- ※台の上に乗る、
- ・ストーマ（人工肛門・人口膀胱）等の内部障害の方の着替えに
- ・子供の衣類やパンツタイプのおむつ交換に
- ・ストッキング交換の補助に

ベビーチェア、ベビーシート



心のバリアフリーの啓発、ダイバーシティの実現、大学イメージの向上

キャンパスの再生と創造への「共感」。